

菌床しいたけ経営の課題

—宮崎県耳川流域生産者における事例調査—

宮崎県林業総合センター 田原 國治・宮坂 倫子
福里 和朗

経
営

1. はじめに

宮崎県における菌床しいたけ生産量は1993年以降増加傾向にあり、現在(1996年次)生しいたけ全生産量の48%を閉めるようになっている。

しかし、吉良は菌床しいたけ生産について、技術あるいは経営面においていくつかの問題点を指摘している¹⁾。そこで、培地を購入し、自然栽培を行っている生産者を対象として生産上の課題を抽出するために生産体制、販売単価、作業種別労働時間等について調査を行ったので、その概要を報告する。

2. 調査方法

調査は耳川流域内の生産者の中から4人(以後W, X, Y, Zと呼ぶ)を選び行った。なお、いずれの生産者も日向地区農業協同組合(以下JA日向と呼ぶ)の菌床センターから培地(種菌:北研600号)を購入し、同組合にしいたけを出荷している。販売単価、生産量はJA日向の系統販売の入札結果及び宮崎県林業経済課の調査資料を用いた²⁾。作業種別労働時間の調査は1996年8月から1997年3月までの8ヶ月間、毎日作業種別に労働時間の記録を依頼して行った。また、生産体制、収支状況(1995年)等の把握は聞き取りによった。

3. 結果と考察

(1)生産体制と生産規模

表-1に生産者別の労働形態、発生舎の状況及びしいたけ生産の経験の有無について示した。

W以外の3人は2-4人の自家労働により生産を行っている。発生舎については乾しいたけ生産経験者のY, Zはハウスを新設し、X, Wは既施設を改造している。Yの発生舎の標高は800mと高いことから、培養発生などの環境は他と異なる。

生産規模つまり購入菌床数はX, Y, Z, Wはそれぞれ4,526, 8,600, 12,246, 16,097個、同様に年間生産量は2.9, 3.2, 8.4, 7.3トンで、Zの生産量が多かった。

(2)販売単価

県内の1995年生しいたけ平均単価(円/kg)は、菌床しいたけが1,014円、原木しいたけが960円と、菌床しいたけによるほうが高かった。JA日向の平均単価を品柄(A-Dの4区分)別、大きさ(3L-3Sの6区分)別に見ると(図-1)、A品でL, M, 2Lものを生産することが肝要と思われた。4人の平均単価を見ると、Zが1,140円、Xが1,115円、Wが1,009円、Yが946円で、品柄別生産ではA品の割合がX, Z及びWでは50%を越えているのに対して、Yでは24%と低く、単価の低いC品の割合が48%と高かった。また、大きさ別生産でL, M, 2Lの合計が全体に占める割合はW, X, Y, Zでそれぞれ62, 71, 77, 60%とYが高く、Zが最も低かった(図-2)。Zは同割合が低いにも関わらず、平均単価が高かったのはC品が非常に少なかったためと考えられ、単価には品柄が大きく影響するといえる。すなわち、A品の割合を高めることが重要であり、このためには環境管理に加え、採取時期、採取後の保存に留意する必要がある。

(3)作業種別労働時間

作業種別労働時間の割合を図-3に示した。4人の平均でみると、採取、パック詰め、出荷の合計が全体の78%、浸・散水、培地の清掃、培地整理、培地管理が12%、カットが5.7%、培地運搬が4.3%であった。Zは他の3人に比べ、採取時間が短く、パック詰めに時間を要しており、常時4人で従事し、丁寧な選別を行っていることがうかがえる。また、しいたけ生産に関わる日数は、調査期間の総日数の90%にも達し、さらに集中発生時には深夜から明け方まで採取するなど労働が長時間に及ぶことが分かった。

(4)生産経費及び収支状況

生産経費(自家労働賃金は含まない)の内訳を平均値でみると、培地購入代が47%と最も大きく、ついで、支払い賃金10%、販売手数料と減価償却費がともに7%であった(図-4)。収支状況(総収入-総生産経費)をみると、YとWは利潤が生じていない(図-5)。1培地当

たりの生産量の平均値は Y, W, X, Z でそれぞれ 369, 452, 644, 688g で、Y, W は X, Z に比べ低く、また Y は生産が間断的であり、W は支払賃金、利息等があるためと思われる。一方、X と Z はともに発生舎が自宅近くにあり、栽培管理がしやすかったため、1 培地当たり生産量が多く、高単価の品柄の生産も多くなり、利潤が生じたと推定される。

以上のことから、個別の販売単価をあげるには十分な栽培管理を行い、A 品率を高めること。高単価の L, M, 2L 品の割合を増やすこと。作業樹では採取、パック詰め時間に時間が多く費やされること。利潤をあげるには 1 培地当たりの生産量を向上させること、初期投資を抑えること等が分かった。

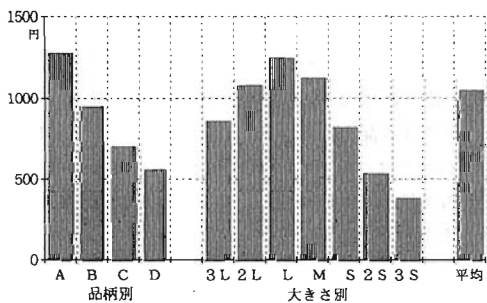


図-1 品柄・大きさ別単価

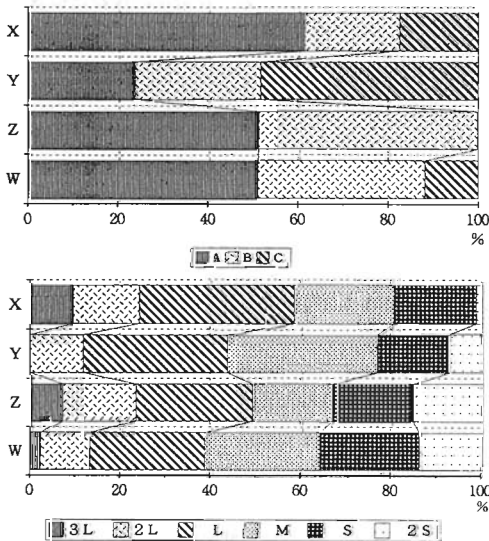


図-2 品柄・大きさ別生産比率

なお、生産経費に占める培地購入代の割合は大きく、生産経費を下げる一つの方法として低価格の培地供給が今後の課題と考えられる。

引用文献

- (1) 吉良今朝芳編：菌床しいたけの栽培と経営，林業普及双書 112，全国林業改良普及協会，pp.179，東京，1992
- (2) 宮崎県西米良村：菌床しいたけに関する調査報告書，pp.96，1996
- (3) 宮崎県林務部林業経済課：特用林産物の現状と統計，pp.51，1996

表-1 菌床しいたけ生産体制

区分	X	Y	Z	W
しいたけ生産経験の有無	無	有	有	無
菌床しいたけ生産開始年次	H5	H4	H4	H4
自家労働従事者数(人)	2 (4)	3 (3)	4 (4)	2 (4)
雇用労働の有無	無	無	無	有(2名)
発生舎の標高	約30m	約800m	約140m	約40m
発生舎の設置状況	養蚕室改造	新設	新設	鶏舎改造
発生舎への交通手段・時間	徒歩3分	車30分	徒歩2分	車20分

注：従事者数の()内は労働可能な家族数

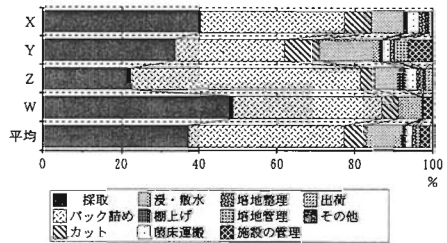


図-3 作業種別労働量比率

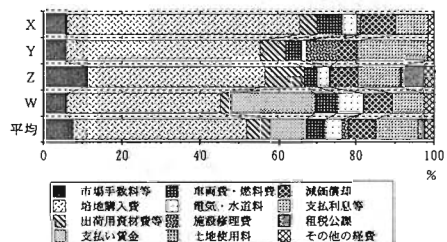


図-4 経費内訳比率

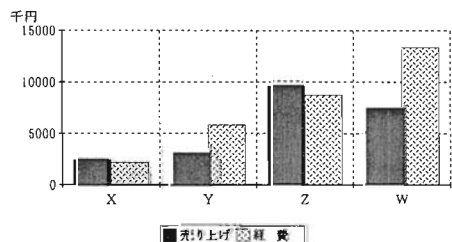


図-5 収支状況